

つれづれなるままにーとあるおっさんの四方山話

第 29 回「筑波山十七景」

とあるおっさん

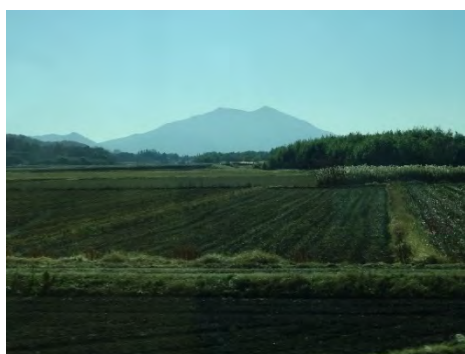
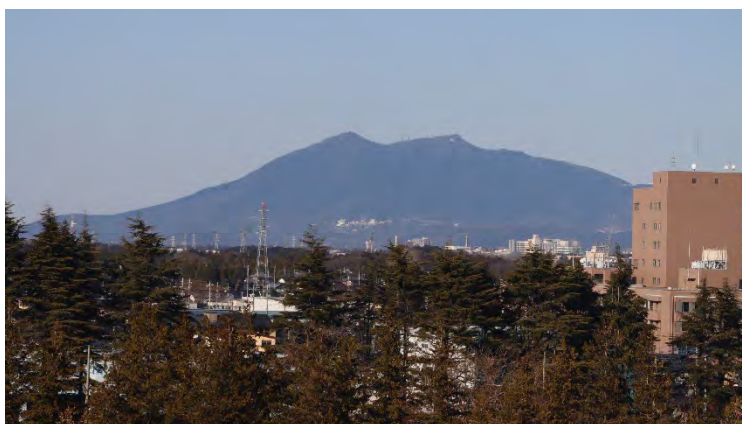
2021 年、何かと厳しい年の始まりではあるが、一月には新年らしい話題をと思い、関東平野の北東に大きくそびえ、筑波にとってはなくてはならない「筑波山」について綴ってみる。農村工学研究部門キャンパスの北およそ 20km のところに位置する筑波山、紫峰とも呼ばれ、西の霊峰富士に対比される名峰である。関東平野に面して、周りの山よりひときわ高く独立峰のようにそびえているため、その姿は東京都内からでも目立つ。

農村工学研究部門から見ると、東の女体山、西の男体山の二つの頂から両側に大きく裾野を広げた雄大で美しい姿を見ることができる。ところが、二つの頂があるため筑波山はどこから眺めるかによって姿が変わる。富士山がどこから見ても緩急の差こそあれ富士山型をしているのとは様子が異なる。

筆者は、農村工学研究部門や都内から眺めた姿が、一番だと思っていた。ところがある日、霞ヶ浦湖畔出身の同僚から「筑波山は自分の実家の近くから見た姿が一番美しい。」と聞いた。それを聞いて、はたして、どこから見ると筑波山が美しく見えるのか、筑波山一周の旅に出てみた。さて、どこから眺めた筑波山が一番か？

いろいろな形の筑波山

農村工学研究部門本館六階
(エレベーター機器室横)
から



農村工学研究部門からと反対側から
(JR 水戸線大和駅付近の車窓から)



男体山と女体山が重なって見える
(石岡市旧八郷町から)



真ん中の峰が中央火口丘、両側の頂は外輪山という火山のように見えなくもない（つくば市北部から）



珍しく山頂が雲に隠れた筑波山（農村工学研究部門から）

水辺から見た筑波山

筑波山は水郷筑波国定公園の一角をしめている。筑波山をバックにした水辺の風景は、台地が広がる比較的単調な茨城県南の景観にアクセントをつけている。



霞ヶ浦（阿見町）



霞ヶ浦高浜入（霞ヶ浦大橋のもと）



上野沼（桜川市）



桜川市旧真壁町のため池



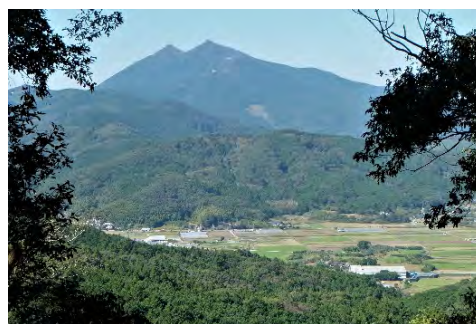
砂沼（下妻市）

他の山から見た筑波山

実は、筑波山は独立峰ではなく、いくつもの山がつながっている。その連山の山々から筑波山を眺めてみる



加波山（桜川市）から



浅間山（石岡市）から



宝篋山（つくば市）から



連山の山ではないが、富士見塚古墳（かすみがうら市）から

下界の変化

山の姿は変わらないが、筑波山を仰ぐ下界は少しずつ変化している。



真下までくると筑波山は威圧感を感じさせる。

30年あまり前まで、麓を鉄道が通っていた。現在はサイクリングロードになっている。



つくば市内の同じ地点から見た筑波山（1979年と2020年）手前には住宅が増えたが、3棟の高層アパートと筑波山は変わらない。1979年は第1回に掲載したのと同じ写真です。

写真は筆者撮影